

SUMITOMO

拠点所在地



斉浩社長

「総合リサイクル企業として、特定の品種に依存しない体制を実現した錦麒産業グループは、大きな変革期を迎えている。常に5年先の事業環境を見据える斉社長は「これからのリサイクルは専門性を高める計画で、敷地の工事が進む」

大阪エリアを中心に展開する錦麒産業は年間2万5000トンの鉄・非鉄スクラップを主に海外ユーザーへ販売している。スクラップ事業のほか、岸和田市内に取得した2万坪の用地では、機械類のメンテナンスや使用済みとなった重機類を集めて再整備を施す「機械整備事業」を本格化する計画で、敷地の工事が進む

「総合リサイクル企業として、特定の品種に依存しない体制を実現した錦麒産業グループは、大きな変革期を迎えている。常に5年先の事業環境を見据える斉社長は「これからのリサイクルは専門性を高める計画で、敷地の工事が進む」

また、グループ全体の運営については内容の見直しを図り、不採算事業からの撤退を進めていく。運用コストの上昇や貿易摩擦など、事業環境が大きく変化するため、海外投資において既に撤退を決定したものもある。「事業規模にはこだわらない」として、収益性に重きを置いた運営にシフトする構えだ。

専門性を高めた運用に移行 不採算事業は撤退へ

求めるスペックも異なる。錦麒産業はノウハウの構築を続けることに、加工処理を行う用地取得や設備投資を積極的に進めながら新時代のリサイクルに対応する方針だ。既存の事業所は取り扱う品種や運用スタイルを分類して「拠点ごとに専門性を持つ運用に変えていく」という。

2000年代後半からは、資本参加による企業のグループ化を進めてきた。現在は国内外に30拠点を構え、年間取扱量は6万ト、年商は500億円規模に達している。

2008年に長崎県五島列島の金属リサイクル企業をM&Aで取得したことを皮切りに、企業のグループ化が急速に進んだ。2012年に鉄スクラップを主力に扱う福(千葉県原市)を開設。2018年には福岡県内に4工場を持ち、基板や家電のリサイクルも展開する柴田産業(福岡県久留米市)をM&Aで取得するなど、地域や商材にとらわれない「総合リサイクル事業者」として業容を広げてきた。今年4月には吉村商事(宮城県栗原市)の事業を継

承し、東北地区にも本格進出。企業のポテンシャルと錦麒グループの強みを生かした運営には定評があり、新規案件の話は絶えないという。

世界中にある販売チャンネルの多さも同社の大きな強みだ。国内外の販売先は4000力所近くを持つという。需要の状況に応じて販売先を柔軟に変えることで、収益の向上と安定化を図っている。

グループの舵を取る斉浩社長は、1981年7月25日生

まれの41歳で、2001年に留学生として中国から来日した。学生時代の2003年、北九州市内で雑品の取り扱いを開始。経験が無い中で多くの失敗もあったが、数々の教訓を生かしながら成長を続け、2005年に大阪で錦麒産業を立ち上げた。「趣味は仕事」と笑うように、派手な生活には興味を示さない。しかし、ひとたび事業の話になると、日本の地理や地域特性、運用にかかる経費など、詳細な情報を用いて論旨明快に持論を展開する。こうした姿に業界関係者が注目する商才を垣間見ることが出来る。

物事の決断も速い。日々、膨大な決断を迫られるが、その多くは「1分以内で決めてしまおう」という。この論理的な考えと判断の速さが、錦麒グループの特徴といえる。

「趣味は仕事」と笑うように、派手な生活には興味を示さない。しかし、ひとたび事業の話になると、日本の地理や地域特性、運用にかかる経費など、詳細な情報を用いて論旨明快に持論を展開する。こうした姿に業界関係者が注目する商才を垣間見ることが出来る。

金属リサイクルの選別加工が細分化すれば、作業現場も細分化する可能性がある。こうした現場では小旋回型の75シリーズや120シリーズなどのニーズが高まると斉社長は見ている。埃の影響が大きい建屋内で作業する場合は、小型機においてもラジエーター内の粉塵を排出する逆転ファンのような機能への必要性が高まる可能性もある。

時代の变化に合わせた未だ見ぬリサイクル用「応用機」の実現に向けて、斉社長が住友建機に寄せる期待は大きい。

担当：谷口 晃
斉社長には機械性能を信頼して頂き、同業者様にも住友建機を薦めて頂いております。期待にお応え出来るよう邁進してまいります。

住友建機販売株式会社 大阪支店
〒555-0043 大阪市西淀川区大野三丁目7番210号
Tel : 050-9001-8599 Fax : 06-6476-3767

住友建機 リサイクル紀行

Vol.33 錦麒産業(大阪府)

21世紀の金属リサイクルは、中国の成長にともなう資源パブル、雑品事業の拡大、環境規制の強化、脱炭素対応と、グローバルな環境の変化に忠じて事業環境も大きく変化してきた。2005年設立の錦麒産業(本社大阪府泉大津市)は、こうした変化を見据えながら積極的な投資を続け、いまや国内外にグループ事業所30拠点を構える総合リサイクル企業へと成長した。創業者でありグループを牽引する斉浩社長を訪れた。



整備が進む岸和田工場(大阪府岸和田市)

よ上に、派手な生活には興味を示さない。しかし、ひとたび事業の話になると、日本の地理や地域特性、運用にかかる経費など、詳細な情報を用いて論旨明快に持論を展開する。こうした姿に業界関係者が注目する商才を垣間見ることが出来る。

～住友建機がある風景～



SH250-7MP：錦麒産業では2023年に3台 (SH200LC-7EC※2台、SH330LC-7MH) を新規導入しており、住友建機の割合が拡大している。来年も3台 (SH250-7MH※2台、SH330LC-7MP) を導入する。

時代に合わせた「応用機」を

事業の拡大とともに設備への投資を積極的に続けてきた錦麒産業は、建設機械を数多く保有している。住友建機製のマシンは位置情報機能 (Gナビ) を搭載したもので41台、グループ企業を含めて48台を保有しており、今後も新規導入が進んでいく予定だ。

燃費や耐久性など機械の能力は運用コストを大きく左右するため、斉社長が求めるスペックは高いが、こうした厳しい要求に住友建機のマシンは応えてきた。また、経営者やオペレーターに寄り添い、抱負な知識で提案やケアを行う住友建機の営業も錦麒産業の「強み」になっている。



SH330LC-7MH (岸和田工場)

リサイクル業の変化を見据える斉社長は「荷役機械も変化が求められる」として、導入マシンが小型化していくことを予測している。

金属リサイクルの選別加工が細分化すれば、作業現場も細分化する可能性がある。こうした現場では小旋回型の75シリーズや120シリーズなどのニーズが高まると斉社長は見ている。埃の影響が大きい建屋内で作業する場合は、小型機においてもラジエーター内の粉塵を排出する逆転ファンのような機能への必要性が高まる可能性もある。

時代の变化に合わせた未だ見ぬリサイクル用「応用機」の実現に向けて、斉社長が住友建機に寄せる期待は大きい。

担当：谷口 晃
斉社長には機械性能を信頼して頂き、同業者様にも住友建機を薦めて頂いております。期待にお応え出来るよう邁進してまいります。

住友建機販売株式会社 大阪支店
〒555-0043 大阪市西淀川区大野三丁目7番210号
Tel : 050-9001-8599 Fax : 06-6476-3767